

## 株主の皆様へ

アンリツグループは  
「経営革新2008」の確実な実行により、  
競争力強化と収益力向上を実現します。

代表取締役社長  
戸田 博道

### 当期(2008年3月期)の業績と取り組み

当社は、2006年7月に「安全・安心で快適な社会の実現に貢献する企業」を目指した中期経営計画「Anritsu Global LP 2008」を策定し、営業利益率10%以上の目標を掲げ、「利益ある成長」の実現に向けてグループを挙げて取り組んでいます。

中期経営計画の中間年である当期は、製品ラインアップの拡充、販売・顧客サポート体制の強化などに努めましたが、新製品の市場への投入が遅れたことや、2008年に入り外部環境が悪化し、顧客の設備投資抑制の動きやドル安による為替差損の影響が強まったことにより、6期ぶりに売上高が1,000億円を超えたものの、売上高・利益率ともに当初の計画を下回るものとなりました。

このような状況に対処し、中期経営計画の目標としていた体質改善を進めるため、当社は今期以降の競争力強化と収益力向上のための施策「経営革新2008」に取り組むことを決定し、その一環として当期中に不採算製品の整理、非効率部門の改革などを行いました。

この結果、当期の連結売上高は1,004億85百万円(前期比1.0%増)、営業利益は53億56百万円(前期比15.8%減)、売上高営業利益率は5.3%となりました。また、営業外費用として棚卸資産廃却損・評価損56億48百万円、特別損失として経営革新施策費用11億56百万円などを計上し、経常損益は20億6百万円の損失、当期純損益は39億円の損失となりました。

### 今期(2009年3月期)の課題と取り組み

情報通信ネットワークの分野においては、今期も厳しい市場環境が続くものと予想されます。当社は主力である計測器事業において「経営革新2008」を確実に実行することで、収益力の向上を図ります。

また、販売面では、グローバルに事業を展開している顧客との密着度を高めるために、引き続き販売

2008年3月期の実行施策	2009年3月期の取り組み
<b>製品ラインアップの拡充</b>	<b>「経営革新2008」の本格実施</b>
・信号解析計測器の市場投入	・商品企画センターを中心としたマーケティング力の強化
・ハンドヘルド計測器の拡充	・サプライ・チェーン・マネジメント(SCM)の改善によるコストダウン
・3G、3.5G携帯端末向け計測器の機能強化	・研究開発費の投資効率の改善
<b>販売・顧客サポート体制の強化</b>	<b>市場ニーズにあった新製品の市場投入</b>
・欧州・中近東地域の営業体制の再構築	・次世代移動通信に対応した新製品の市場投入
・メキシコオフィスの開設	・汎用計測器の機能強化とさらなる新製品の投入
<b>戦略事業の推進</b>	<b>戦略事業の推進</b>
・サービス・アシュアランス事業の拡大	・サービス・アシュアランス事業の継続的拡大
<b>「経営革新2008」の策定と実行</b>	・産業機械事業の海外ビジネスの拡大
・不採算製品の整理、非効率部門の改革	・分社化した精密計測事業の立ち上げと拡大

チャネルの拡充に取り組むとともに、重要顧客との開発ロードマップの共有などにより市場ニーズをとらえた新製品の投入を進めます。

これにより、今期の連結売上高は1,000億円、営業利益は45億円<sup>(注1)</sup>、経常利益は37億円、当期純利益は10億円を計画しています。

(注1) 営業利益については、従来営業外費用として計上していた棚卸資産評価損を、2009年3月期から売上原価に含めるため、当期実績16%減となります。

## 株主還元と資本政策

当社は、株主の皆様に対する利益還元策として、連結当期純利益の水準に応じて連結純資産配当率(DOE)を上昇させることを基本に、事業環境や今期以降の業績の見通しなど、諸般の事情を総合的に考慮して剰余金の配当を行う方針です。なお、剰余金の配当につきましては、引き続き、株主総会決議による期末配当および取締役会決議による中間配当の年2回の配当を行っていく方針です。

当期の利益配当金につきましては、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)とさせていただきます。今期の配当につきましても、引き続き1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)を予定しています。内部留保資金につきましては、急速に進展する技術革新や市場構造の変化に対応するための研究開発費、設備投資に活用していく方針です。

株主の皆様には、引き続きご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2008年7月

代表取締役社長

戸田 博道